

第 I 部 調査の概要

第 1 章 調査の目的、対象と方法

日本女子大学現代女性キャリア研究所では、2011 年度より「女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究」を進めている。本報告では、2011 年 11 月に実施した「女性とキャリアに関する調査」の結果概要を示す。

1. 調査の目的と背景

戦後日本の社会経済の成熟に従って、女性の高学歴化は進展したが、女性の社会進出が遅れていることはつとに知られた日本の特徴である。労働力率の M 字カーブの維持、とりわけ高学歴女性の労働市場からの退出が顕著であると指摘されている。

女性が就業を中断したり、あるいは離職してしまう状況については、これまでも、多くの調査・研究がなされてきた。そのなかには、キャリア支援の観点から、何らかの援助が女性のキャリア形成を円滑に進めるとの知見も示されている。本研究所が 2008 年度から 2010 年度までに私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として実施した「女性の多様なキャリア開発のための基礎的研究——『女性とキャリアアーカイブ』構築へむけて」において収集した社会調査の中にも、特に 80 年代半ば以降、女性の家族キャリアと職業キャリアの両立、あるいは職業キャリア再開の条件について、いくつか興味深い調査研究がみられる。

本調査は、そうした先行調査や先行研究の知見を踏まえながら、多様なライフコースをたどる女性の就労に対し、どのようなキャリア支援が可能か、それを探ることを目的となされたものである。従来行われている女性の能力開発や再就職支援は、やや定型的な子育て支援に終始しており、多様なプログラムの開発という点では、遅れているのではないだろうか。キャリア支援の新たな方向性を探るためには、女性の就労プロセスそのものに着目し、それぞれのニーズを探る必要がある。そこで、本調査は、女性の 5 つの就労パターン（初職継続型／転職型／再就職型／離職型／就労経験なし）に着目しながら、就労に対する意識、初職離職理由、転職・再就職意向、学校卒業時のライフデザイン、経済的背景等を明らかにし、女性のキャリアの軌跡を把握することを目的とした。

2. 調査対象者と方法

調査対象者や方法については、以下の通りである。

・調査対象

年齢 25 ～ 49 歳の女性

学歴 短大・高専卒以上

地域 東京、神奈川、埼玉、千葉

・ 調査時期

2011年11月25日～27日

・ 調査方法

株式会社マクロミル登録モニターへのインターネットを利用したアンケート調査

・ 主な調査項目

現在までのライフプロセスの状況、就業継続可能理由、離職理由、職場選択の基準、就業意識と就業実態、学卒時と現在のライフデザイン、女性の就業に対する両親・配偶者パートナーの意識、転職・再就職意向、大学に期待する女性の再就職支援、将来への希望と不安など

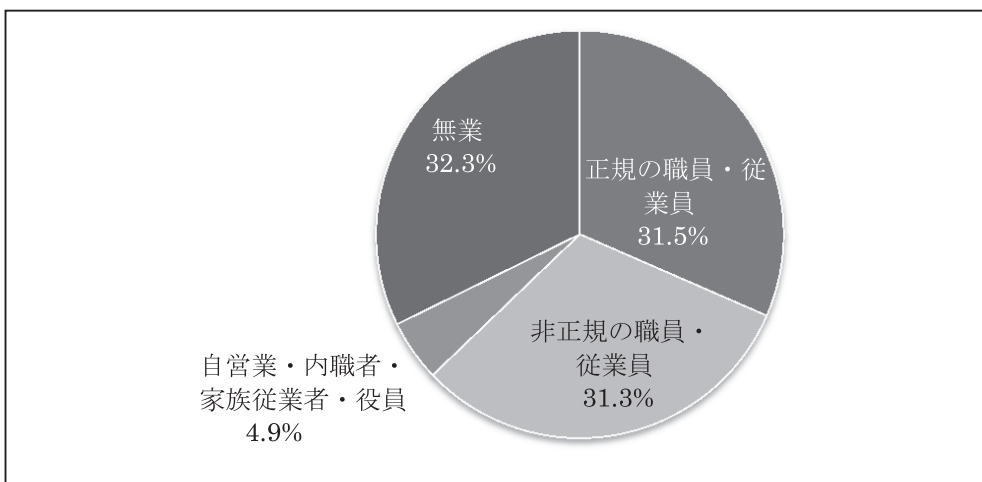
・ 回答人数

5155人

・ 調査対象者の割付

本調査では、調査対象者の就業形態の偏りを避けるために、年齢を25～29歳、30～39歳、40～49歳の3つに分け、それぞれの年代に対して2010年「労働力調査」に基づいた就業形態の割付けをおこなった。その結果、全体として正規雇用、非正規雇用、無業それぞれが約3分の1を占めている。また、自営業・内職者・家族従業者・役員は約5%であった。

図 I - 1 - 1 現在の就業形態 (N=5155)



3. 本報告について

本報告は、以下のような構成となっている。

I部は本調査の概要にあたる。第1章では、調査目的及び調査対象について記述した。第2章では、本調査の主な結果を示した。II部では、調査結果を個別の視点から考察している。第3章は、初職を継続している人びとに着目して、その実態を分析した。第4章では、対象者の転職・再就職行動から、女性の就業プロセスについて検討した。第5章では、社会経済状況の変化という視点から、女性のキャリアを追った。

※本報告を読む際の注意事項

・パーセンテージは、小数点第2位で四捨五入して、小数点第1位までを表示した。四捨五入したため、合計値は必ずしも100%にならない。

「女性とキャリアに関する調査」研究プロジェクト

代表：大沢真知子

〈報告チーム・メンバー一覧〉

- ◎岩田正美（日本女子大学現代女性キャリア研究所所長）
- 三具淳子（日本女子大学現代女性キャリア研究所研究員）
- 杉浦浩美（日本女子大学現代女性キャリア研究所研究員）
- 仲田周子（日本女子大学現代女性キャリア研究所研究員）
- 斎藤真由子（日本女子大学現代女性キャリア研究所研究員）
- 盧回男（日本女子大学現代女性キャリア研究所 RA 研究員）
- 御手洗由佳（日本女子大学現代女性キャリア研究所 RA 研究員）

「女性とキャリアに関する調査」は、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成事業「女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究」（代表：大沢真知子）の一環として実施したものである。